

クローズアップ支部Vol.11

『私たちの沖縄支部を紹介します』

HOTなコミュニティを創造

西田支部長にインタビュー

Q1. 沖縄支部の歩みと特徴についてご紹介ください。

2008年4月に学生会が発足し、卒業後も「沖縄学生会のサポート」や、「会員相互の親睦と研鑽」を増進し、沖縄ならではの情報発信と活動を行うとともに母校の発展に寄与することを目的に、2010年9月校友会が発足しました。活動と致しましては、学生会発足前から続いているスクーリングの2日目に講師を囲んでの懇親会、進学相談会、学習会、ビーチパーティー等を行っています。



Q2. これまでの活動で一番印象的だった時のお話しをお聞かせください。

2012年9月の沖縄支部設立2周年記念行事の際は、猛烈な台風17号の影響により、那覇での宮内副学長の講話、懇親会が中止となり、県外参加者のみ宿泊ペンションでの開催となりました。

リベンジとなった2年後には、宮内副学長は学長となられ、再度沖縄にお越しいただきました。「産能のあゆみ&スポーツマネジメント」と題して学習会を開催し、「産能のあゆみ」では自分たちの大学が日本の歴史に深く関わっていることを知り、また「スポーツマネジメント」では湘南ベルマーレと提携した経緯、「J1昇格までのお話を伺いました。大変興味深いお話に驚くと共に、産能で学んでいる事に強く誇りを持ちました。

この2年越しの学習会を無事終えた事が、これまでの活動で一番印象に残っています。



Q3. 支部の課題と今後の方向性についてお聞かせください。

校友会、学生会活動に協力出来る人材の確保が厳しい状況ですが、今後も学習会やイベントの告知をチラシや手紙、ITを使って現役生に案内し、地道に活動していきたいです。そしてこの産能ネットワークを個々が有効活用できる組織になればと思います。組織をしっかりと「湘南ベルマーレ」や「ビーチバレー」のキャンプ誘致なども行えるぐらいの活動が出来ればと思います。

今回クローズアップするのは沖縄支部です。沖縄学生会から派生して誕生した経緯を持つだけあって、学生会との交流が大変盛んに行われています。そのような沖縄支部を率いる西田健治支部長にお話を伺いました。

Q4. 母校に対し要望などがあればお聞かせください。

少し前まで沖縄でのスクーリングは年3、4回でしたが、近年では年6回開催して頂いております。産業能率大学に対しましては大変感謝しております。沖縄における産能の教育の必要性を感じていただいているものと存じます。今後とも観光、経済、福祉に大いなる可能性を秘めた沖縄を、よろしくお願い致します。



(取材：支部幹事 河本真紀子)

プロフィール 西田支部長のサイドフェース

仕事：陸上自衛官

住まい：出身は兵庫県宝塚市

現在は日本一人口の多い村の読谷村

生まれ年：1968年生まれ 乙女座

趣味：ゴルフ、ダイビング、野球、ジョギング、食べ歩き

卒業年：2008年9月

一言：沖縄学生会、校友会発足に対してご支援、ご指導を頂いた校友会の持木副会長、入江理事、そして山下福夫教授にこの場を借りて感謝を申し上げます。皆さん沖縄へのお越しをお待ちしています。



読谷村のイメージキャラクター
よみとん



◆校友会、学生会会員が語る人物像◆



「仕事のかたわら、支部長としてそして三人のお子さんの父親として大変子煩悩です。地元読谷村での地域活動も、精力的に頑張っています。」 新川支部監事

「強面で黙っていると気難しそうに見えますが…。笑顔が素敵なマイホーム/バビで、沖縄支部のベイマックス的な存在です。」 園田(旧姓清水)前学生会会長



「縁の下での力持ち。ボランティア精神あふれるリーダーです。その気遣い、行動力にはいつも頭が下がります。新川支部監事とのコンビは最強です。」 河本支部幹事

「沖縄学生会の世話人役・相談役をしていただき、学生会活動の後押しや在学生へ学習の激励してくれる温かい存在です。」 宮城・学生会会長

